

# NEWS!

Vol. 43-3  
No. 213  
令和6年夏号

編集・発行  
松浦機械製作所

## マツウラオープンハウス2024開催 ～ Let's Start with Matsuura ～

**Matsuura Open House 2024**  
2024.7.2(TUE) - 4(THU) 9:30 @松浦機械製作所 本社工場  
16:30 (福井県福井市東森田4-201)

マツウラは2024年7月2日(火)～7月4日(木)の3日間、本社内にて当社のプライベートショーとなるマツウラオープンハウス2024を開催いたしました。今回のオープンハウスでは、製造業における労働力不足と生産性向上を早期解決することをテーマに掲げ、実機展示では展示会初披露機種のほか、**MiOS 4**を搭載した**MAM72**シリーズ、**MX**シリーズをフルラインで展示し、自動化・無人運転の活用方法などについて提案いたしました。

### 展示機種

### 展示会初披露



▲MAM72-52V PC15

▲MAM72-70V PC18

### 展示内容①

#### 実機展示

展示会初披露**MAM72-52V PC15**と**MAM72-70V PC18**、ほかフルライン展示

新オペレーティングシステム「**MiOS 4**」を搭載した**MAM72-52V PC15**と**MAM72-70V PC18**を実機で初出展。実機を触れて**MiOS 4**の操作感を体感いただきました。

### 展示内容②

#### セミナー

「自動化・無人運転をはじめませんか(**MiOS 4**)」

より直観的で操作性が向上した**MiOS 4**を搭載した5軸機+マルチパレットシステムで、自動化・無人運転が未経験でも自動化が始められるソリューションを実機を用いたセミナーにて提案いたしました。

### 展示内容③

マツウラのモノづくり展示

工場内の各工程見学に加え、きさげ体験コーナー、**MX-520 PC4**を用いたパレット繰返し精度の実演などマツウラのごこだわりについて体感いただきました。

詳しくは4ページにて紹介いたします

## 日本のヘソ

### 福井 No.211



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第211回目は「ふくい応援ポケモン・カイリユ」の話です。2023年10月、福井県は株式会社ポケモンと相互協力協定を締結し、同社の人気コンテンツ「ポケットモンスター(以下、ポケモン)」内のキャラクターであるカイリユをふくい応援ポケモンに任命しました。

協定締結の目的としては、福井県の魅力発信・知名度向上や観光振興・誘客促進、県産品の消費拡大、地方創生・地域活性化をねらいとしています。

今回任命されたカイリユというポケモンはドラゴンポケモンに分類されており、恐竜王国ふくいのイメージとも合致

することから福井県応援ポケモンに選ばれました。

ポケモンは1996年に発売された家庭用ゲームから始まり、今やアニメや映画、カードゲーム、スマホゲームなど様々な媒体で展開されています。米国TITLEMAXが発表したキャラクターコンテンツの収益ランキングでは累計約921億ドルと数あるキャラクターを抑えて世界1位の収益金額となっています。そのような世界的コンテンツと福井県が協力し合うことになったことは福井県民として嬉しく思います。

福井応援ポケモンの活動としては、県主催のイベントなどへ参加し催しを盛り上げるほか、2024年7月よりえちぜん鉄道が運行するカイリユのラッピング電車が県内を走ります。その他、県産材を利用したカイリユ掛け時計やヒノキ使用のコースターなど福井でしか買うことができないグッズもありますので、福井県にカイリユへ会いに遊びに来てみてはいかがでしょうか。

# ユーザーを訪ねて

No. 198

## 有限会社 中村精機 多面パレットを用いた無人運転を

今回のユーザーを訪ねては、北陸自動車道の福井インターチェンジから車で15分の距離にある有限会社中村精機です。取材には、中村明広氏にご対応いただきました。同社は明広氏の父である代表取締役の中村弘典氏が1974年に創業。創業以来、機械部品等の金属部品加工業を続けています。

同社の創業者である弘典氏は中学校を卒業後、鉄工所の職に就き、その後、27歳で独立することとなりました。自宅近くのガレージに汎用旋盤1台を設備し、事業を開始しました。当時は、現在のようにFAXや電子メールが普及している時代ではなかったため、電話を受けては顧客のもとに出向き、図面を貰うという、現在と比較して非常に時間と労力がかかっていたことを振り返っていました。

細かな設備を整えながら、少しずつ業績を積み上げていく中で、1984年に大きな転機を迎えます。それは、大手メーカーのNC旋盤の導入でした。福井県内でも同機種は1台しか設備されておらず、業界でも珍しいものでした。当時を振り返り、弘典氏は「清水の舞台から飛び降りる気持ちで設備した。」とのことでした。

その後、バブル景気に入ったこともあり、従来では対応できないような仕事量をこなすことが可能となりました。このNC機の導入が、現在の当社の礎となりました。

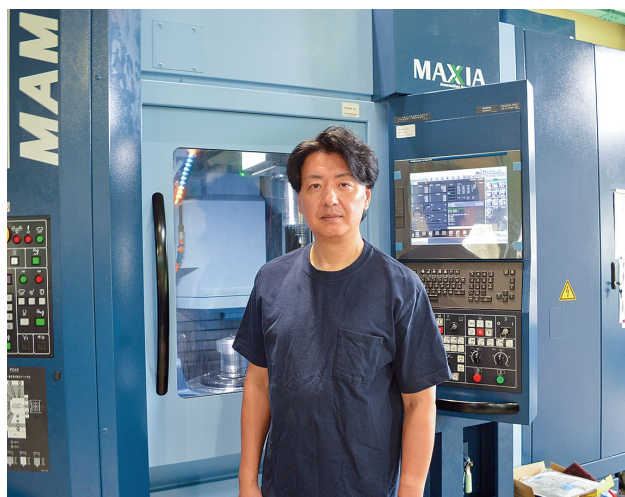


▲ 有限会社中村精機外観

### 父のモノづくりを受け継ぐ

二代目となる明広氏は大学を卒業後、銀行へ就職。銀行員としてセールスにも自信をつけていく一方で、父の創業した中村精機を継ぐことも将来の選択肢として考えるようになりました。継ぐことを決意した経緯について明広氏は次のように話します。

「父親が大きな病を患ったことや年齢的なこともあるせ



▲ 中村明広氏

いか、数年おきに更新していた設備が止まっていました。このまま行けば、いずれ廃業するのだろうと思い、それなら自分がやってみるのも一つの道だと思うようになりました。会社経営に興味を持っていたことと、自分の可能性を試してみたいという考えもあり、父親の会社を継ぐ意思を伝えました。当初、父親は私が継ぐことに驚き、反対もありましたが、熱意を伝え納得を得ることができ、36歳で当社に入りました。」と明広氏。

### MAM72-35V PC40の選定理由

当社は旋盤設備が多い一方で、マシニングセンタはマツウラの立形MC (800VF) 1台であったため、繁忙期になるとマシニングセンタの前にワークが渋滞することがネック事項でした。

また、老朽化する設備をカバーすることと、上記の問題を少しでも解消する目的で2017年に他社製のターニングセンタを導入したことを契機に、多軸機を使うことの自信と期待が大きくなりました。

それ以降、段取工程の削減や自動化できる機械に興味を持ち、様々な工作機械をメーカーや中古機屋を含め、色々と見て回りました。

MAM72-35V PC40の導入を決める際に重視した点は、段取時間の削減と自動運転の実現でした。多面パレットと5軸機であるMAM72-35V PC40で、その目的を達成できそうだと思います。

「少量多品種生産の当社でも、多面パレットであれば、複数のワークを搭載できることから、ワーク変更による段取り時間を削減できると想定しました。MAM72シリーズは他社製のパレットチェンジャー搭載機よりも圧倒的にパレット数が多いことからコストパフォーマンス



## 駆使して効率的な生産を実現

スに優れていると思いましたが、このパレット数において **MAM72** シリーズは唯一無二の機種だと感じました。」

また、「従来3軸機で加工していたときは、加工面が複数あるワークであれば、ワークの脱着や座標系の再設定、更に工具の付け替えなどの段取りが発生しますが、削減できるものでもなくネックに感じていました。これを解消する為には、やはり5軸加工による工程集約が良いだろうと考えました。」

更に、**GibbsCAM** を使っていたこともあり新規設備導入後もCAD/CAMベースで運用できる機種であれば、導入してもスムーズに移行できるだろうと考えました。」と明広氏。



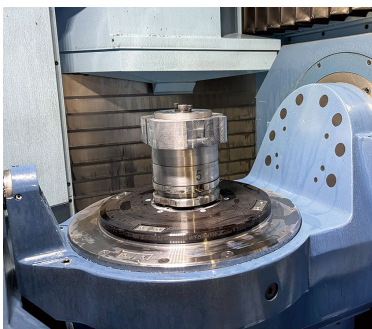
▲ MAM72-35V PC40

### MAM72-35V PC40の使用感

**MAM72-35V PC40** の設備で効果の大きかったことは、PC40、5軸加工、マトリクスマガジン、タッチプローブによる段取り削減と自動化・無人運転でした。

「PC40のうち、汎用的なパレットと専用ワーク治具のパレットを分けて使用しています。多品種小ロット生産の当社でも、複数の治具を載せられることは、非常に便利です。」

5軸加工は選定期間に想定していた通りに工程集約を実施することができました。



▲テーブルにセットされた治具

マトリクスマガジンは、既存の加工ワークで使用した工具を全て設置することができ、ワークの違いによる工具交換が無くなりました。

タッチプローブに

### 有限会社 中村精機 概要

本 社 〒910-2357  
福井県福井市朝谷町26-35  
TEL/FAX 0776-90-3123

代 表 者 代表取締役 中村 弘典

創 業 1974年

従業員数 3名

事業内容 機械部品の加工

より、ワークの芯出しの手間が無くなりました。更に、無人運転をしていても都度ワーク座標を更新できるため精度の正確性や安心感も増しました。

**MAM72-35V** によって、段取り時間が削減でき、十分な加工時間が得られました。また、**GibbsCAM** のマシンシミュレーション機能は5軸加工の複雑なプログラム運転における安全性を確保できています。」と明広氏。

### 今後の展望

「今後この事業を続けていくことを考えると、やはり一緒に働いてくれる方が必要だと思っています。かなりニッチな業界ですが、機械操作に抵抗がない方、細部まで注意を払える方などはこの仕事に向いていると思います。経験者はもちろん、機械加工に興味がある方に来ていただくと嬉しいです。今後もお客様の多様なニーズにお応えできるように精進したいと考えています。」と明広氏。

\*\*\*\*\*

明広氏は「**MAM72-35V** のマムという呼び名は、マザーマシンを連想するネーミングで認知しやすく、マツウラさんの5軸機のハイエンドモデルとしての機能面も含めて気に入っている。」と話していました。

また、同社は工作機械の部品も供給しており、マツウラの部品も同社にて製造されています。同社から部品を仕入れるマツウラの購買担当によると「中村精機さんは、加工難易度の高い新しい加工品を依頼した際も前向きに取り組んで頂いています。高い技術力で加工品の対応をしてもらっています。」と信頼を置いていました。

ガレージから創業し、規模を追わず工夫を重ねながら顧客の期待に応えてきた同社。また、最新かつハイエンドな機種を積極的に設備していく姿勢は、弘典氏から明広氏にしっかりと受け継がれており、純粋にモノづくりが好きなお親子2人の姿に感銘を受けました。

今回のインタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取り、ご視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



### マツウラ出展レポート



▲ MX-420 PC10



▲ CUBLEX-35 PC40



2024年7月2日(火)～4日(木)の3日間、当社本社工場において「マツウラ **Open House 2024**」を開催いたしました。

今回のオープンハウスは、製造業における労働力不足・生産性向上の課題を早期解決するため「**Let's Start with Matsura**」をテーマに、変種変量生産・長時間無人運転のノウハウと未経験の方でも簡単に始められる自動化・無人運転ソリューションを提案いたしました。

本記事では記載内容を一部紹介いたします。

#### 特別セミナー

### 「自動化・無人運転をはじめませんか」

会期中1日2回、合計6回にわたって、新オペレーティングシステム **Mios 4** 搭載機種の活用セミナーを実施いたしました。

セミナーではプレゼン資料とともに新機種 **MAM72-70V PC18** の操作画面を大型モニターに出力しながら、より安全かつ確実な無人運転を実演しました。

**Mios 4** では、加工スケジュールや加工プログラムの進捗状況など自動運転に必要な情報を一覧表示したホーム画面機能を搭載し、オペレーターのスキルに依存せず、確実な無人運転を可能にします。その他、長時間運転に欠かせない工具管理では工具寿命管理機能を標準搭載。スケジュール設定の際に必要なプログラムや工具が不足していないかを事前に確認する機能を搭載しており、経験が浅い作業員でも安心して無人運転が使えます。

#### マツウラのモノづくり展示

### 各加工実演、きさげ体験

#### 加工実演

展示機は **MAM** シリーズ、**MX** シリーズをフルラインで工場内に配置し、各所で加工実演も実施しました。加工実演について一部紹介いたします。

**MX-420 PC10** を用いて内径交差穴加工のバリ取り工程の自動化を提案いたしました。交差穴を加工する際、バリが発生し易く、そのバリ取りは手作業で行う必要があり、簡単に除去できません。マツウラの5軸加工とゼロバリドリル、ブラシツールといった特殊工具を組み合わせたバリ取り工程の自動化を提案いたしました。

**CUBLEX-35** ではCGTECH VERICUT、SANDVIK COROMANT、**GibbsCAM** の最新ツールを用いた高能率加工として異形フランジの加工を実演しました。送り速度の調整や加工パスの最適化により、従来比14～36%の加工時間を短縮することができます。

#### きさげ体験

工場内では、通常の工場見学に加え、各所でマツウラのモノづくりへのこだわりを体感いただきました。

展示内容の中で賑わっていたものは「きさげ体験」でした。きさげとは、機械加工を行った金属部品表面の僅かな凹凸を人の手によって削り取り、表面を可能な限り平面にしていくながらの技法です。先端に超硬バーを取り付けた長さ50cmほどの専用工具を用い、体全体を使って加工していきます。ほとんどの方がなかなか上手く削れず、コツを掴むことに苦戦している様子でしたが、綺麗に削れると喜びの声が上がり、盛り上がっていました。

### 来場したお客様の声

- ・作業員のことを考えて設計されていると感じました。
- ・当社も人手不足のため、提案されていた無人運転を活用してみたい。
- ・**Mios 4** を初めて触ってみたが、確かに直観的な操作性ですぐに慣れることができそう。



# マツウラ上海事務所 リニューアルオープン



この度中国上海事務所は2011年4月開設以来、13年ぶりに全面改装を行い、今年6月にリニューアルオープンする運びとなりました。

新しい事務所の内装については、経験豊富な女性設計者をお願いして、これまでと違った、洋風のイメージで時代に合わせたデザインとなっており、レイアウトも含めて、明るい雰囲気事務所に生まれ変わりました。今後は代理店、ユーザー、取引先にも気軽に訪問、歓談いただけるような環境を整えていく次第です。新しい事務所は『リセット、リスタート』をスローガンに所員一同頑張っていきたいと思っています。

## 拠点長からの一言

我々中国上海事務所も開所して13年目に入り、これまで幾度となく、厳しい状況に見舞われたこともありましたが、スタッフ全員の工夫と努力で何とか乗り切ってきたことを誇りに思っています。拠点長として、次世代のメンバーにこの真新しい事務所を引き継ぐことは嬉しい限りです。これからはDXデジタルの時代、それらに対応できる人員の確保、育成が急務と考えています。更に弊社製品の強みをもっと生かせるためにも、①生産効率などの提案ができる営業員 ②それを実現して形にできるアプリケーションエンジニア ③それをサポートするアフターサービスの人員を整えることが不可欠と認識しています。リニューアルした上海事務所を今後ともよろしく願います。

中国上海事務所 首席代表 隅田悦次



取締役 松浦 悠人



2024年5月に経産省より公開された「製造業を巡る現状と課題 今後の政策の方向性」という資料を読んだでしょうか？恥ずかしい話、弊社に当てはまることが多くありました。

この2年間で取り組んでいた基幹システム刷新のプロジェクトですが、長い年月をかけて段階的に少しずつ刷新する案に方針転換をしました。そして、先ほどの資料にある製造業DXの失敗例がまさに自分たちのケースと一致していたのです。読んでハッとしました。自分の主導のもと、根本的な問題の解決に妥協するダメな日本企業の典型に突き進んでいるのではないかと思ったんです。この2年間の検討を受けて、「変わりたいなら覚悟

して変わる。変わらないなら夢を見ない。どちらかはっきり選ぶ」この方針で再出発と思っていましたが、これは間違いでした。現状に不満があるなら変わらないといけない。そして、会社を根本的に変えられるのは自分だけです。これは自分が家業に飛び込んだおかげです。若いながら、大きな何かを変えられる立場も機会も得られた。まだ数十年も経営に携わるから、今回の決断と将来に責任を持てる。逆に自分が逃げたら誰がいつ変えてくれるのだろうか。

実はこのことに気づかせてくれたのは、経産省の資料だけでなく数人の社員でもあります。迷いが生じていたのが解消されました。これからの時代を見据えて、変えるべきところは、変えられる時に、変えなければなりません。ということで、また懲りなく、今までのマツウラ独自のやり方を変えて全体最適を目指すというのをやらせていただきます。

また「製造業を巡る現状と課題 今後の政策の方向性」はネットでPDFが公開されています。素直に面白いので、ぜひ一読してみてください。

# MAM72-35V 特集

高精度な同時5軸加工と変種変量・長時間無人運転がもたらすメリットを最大限活用されているお客様達です。



## Colbree Precision 社 イギリス 未来への投資



Colbree Precision 社は主に機械加工を行っており、お客様のニーズに合わせて事業を拡大してきました。創業当時は板金加工から始まり、現在では高精度板金加工やケーブル加工、電気組立、機械加工などを行っています。

同社が最初に導入したマツウラ機は2パレットを装備した横形の **H.Plus** シリーズでした。この導入により、多パレット機の可能性を感じたとのこと。続いて、**H.Plus-300 PC15** を設備して常時質の高い作業ができ、プロジェクトの需要に応じて無人運転が可能となりました。

より高い生産能力を求めて **MAM72-35V PC32** を導入し、複数のジョブを一度に行うことができるようになりました。インタビュー動画では、同社の Vince 氏が「この機械のおかげで、私たちはさらなる成長と新たな契約の獲得を目指すことができます。これまで導入してきたすべてのマツウラ機と、その品質、一貫性、部品の精度には非常に満足しています。」と感想を述べています。

また、過去に **MAM72-63V** も導入しており、当時 SNS にて次のように発信されています。

「今年も Colbree Precision に新しい5軸マルチパレット機がやってきました。最新の加工技術に投資し続けるとともに、最新の加工方法を導入することで、マルチオペレーションセットアップの必要性を減らし、連続加工を可能にしています。」

常に高効率な製造現場を目指す同社では、マツウラ機を導入して「理想の現場」を実現しました。



## Staffordshire Precision Engineering 社 イギリス わずか1ヵ月で無人運転を実現



Staffordshire Precision Engineering 社は航空宇宙業界をはじめとした幅広い業界向けに最先端のモノづくりを行っています。同社では設備導入の検討にあたり、競合他社や他のお客様が利用しているマツウラ機をご覧になり、マツウラ機に関心を抱いたそうです。数年間の検討ののちに **MAM72-35V** の導入に至りました。

特に5軸加工に強みを持つ同社にとって、**MAM72-35V** の無人運転機能は大きな利点となりました。同社の Gary Smith 氏は「新しい機械と自動化技術の導入には慎重でしたが、スタッフは新技術を迅速に受け入れ、トレーニングにも積極的に参加しました。」と語ります。その結果、わずか1ヶ月で夜間の無人運転を実現し、納期が大幅に改善されました。これにより、スケジュールされた注文を前倒しで処理できるようになり、現在の納品パフォーマンスは6ヶ月前よりも飛躍的に向上しました。

Gary Smith 氏は、「初めての自動化・無人運転の導入には不安もありましたが、マツウラのサポートは一流で、従業員を完全に巻き込んで技術を導入することができました」と述べています。

また、同社のホームページでは「松浦機械製作所の **MAM72-35V PC32** は、デビュー以来、あらゆる技術的なアップグレードを繰り返しながら、自動化5軸マシニング市場のマーケットリーダーであり続けました！そんな機械を2024年に導入したことを誇りに思います。」と記載されています。





## PFT社 ドイツ

# ワンパッケージで自動化を実現



PFT社は主にレースカー向けの部品を製造しています。同社では、マツウラ機を**MAM72-35V**を2台と**MX-520**を2台導入していただいています。特に多面パレットと大容量工具マガジンを持つ**MAM72-35V PC40**を活用して高精度な部品を効率良く生産しています。

Dario Antunovic氏は、「マツウラの良いところは非常にレベルの高い自動化が可能で、短納期対応が可能になっています。PC40のパレット容量も自分たちのこなす品種にとっても合っています。」  
「**MAM72-35V**は高精度で精度の再現性がとても高いです。精度に関して問題になったことはありません。初品さえできてしまえば、後の量産も問題なく行えます。」と**MAM72-35V**の自動化の利便性と精度の高さを語ります。さらにマツウラを選ぶ他の利点としてどんな問題が起きてサポートをしてもらえるとサービスの良さを挙げています。

Herrmann Graef氏は、「マツウラは1つの自動化パッケージとなっていることが良い点です。機械と周辺機器が1つのメーカーで成立しており、このおかげで夜間や週末も無人運転を安心して行えます。」と無人運転の安定性について評価しています。

Patrick Vogel氏は、「ドアを開けて機械の中に入れば、ワークに目の前で触れます。」と機械の作業性や近接性の良さを評価していました。

## シングルorダブル

## 自然災害の救済策に思うこと



社長 松浦 勝俊

今年元旦に発生した能登半島地震からはや半年が経ちました。当時福井市内の自宅に家族で集まって正月料理の準備を始めていたところ、テレビに突如能登半島に大きな地震発生警告画面が映ったかと思ったら、直ぐに大きな揺れが始まり一分近くあったのでは

ないでしょうか、今までの地震の経験上、この震源地は多大な被害が出たと直感しました。実被害は、皆さんもご存知の通り、遥かに想像を超えたものでした。被災地が能登半島の先で交通の便も悪くインフラの復旧の進捗もはかばかしくなく、倒壊した建物や焼け残った外壁が至る所にあってその爪痕は大きく、未だ多くの被災者が避難生活を余儀なくされております。仮設住宅の建設等、政府や自治体も色々復興支援策を検討・実施中ではありますが、被災者の方々が必要とする直接的な支援に対しては、何か物足りなさを感じてしまいます。

先日、会社関係の知り合いの集まりで、私が北陸から参加していたこともあり、能登半島地震の話題になりました。被災された方々は高齢者が多く、生まれ育った

地元で懸命に働いて生活基盤をしっかりと築いていたその方々が、ある日突然大地震で全てを失い、今後の見通しがつかず途方に暮れている状況にあるわけです。お歳からして自力で再度家を建てて生活をしていくことは、実現不可能に近いことでしょう。こういう被災された方々には、期限のある仮設住宅の提供ではなく、政策で住宅を建てて無償提供し、収入に合わせた永年賃貸貸与を実施するなどもっと柔軟で直接的な支援をすべきではないかとの意見が出てきて、私ももっともだと思いました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ景気・経済刺激策として実施されたGoToトラベルには、約40兆円ものお金が投入されたと聞きました。確かにこれはこれで観光業や飲食業の方々には有り難いものだったとは思いますが、旅行したい人達にまでこのような規模の援助を行うことは果たして正しいのか、この内の幾分かでも自然災害の被災者の方々に使用する政策の方が、収めた税金の使い道としては、より正しいと思うのではないのでしょうか。

最近では、地球温暖化の影響か、台風や集中豪雨など自然災害が多発しています。何か真に実のある救済策を考えてほしいものです。

## お知らせ

### 1 「2024 Ene-1 SUZUKA Challenge」当社社員が出場

2024年7月27日(土)から28日(日)の2日間、三重県鈴鹿サーキットにおいて「2024 Ene-1 SUZUKA Challenge」が開催されました。

この競技は単三形充電電池40本を動力源とした車両(=Ene-1)を各自のチームが独自に制作し、その車両でレースを行います。3輪車両の「KV-40」と市販の自転車をベースとした「KV-Moto」の2種類それぞれで競技が行われます。走行している姿は充電電池で動いていると思えないほどのスピードで、90km/h以上の速度を出すチームもあるようです。また、順位はコース1周を3回行い、3



▲ KV-40車両に乗り込むドライバー

回の合計タイムによって順位が決定します。タイムアタック中は再充電ができず、バッテリー残量の配分も勝負を左右する重要なポイントとなります。

今回、当社の組立本部第二組立の守谷勇さんが

本競技に参加しました。今大会には高校や高専、大学などの学生チームや社会人チーム、企業団体など約100チーム以上が参加しています。守谷さんが所属する「ふっとび改メ」「ふっとびBIKE」のチームは福井工業大学OBで構成され、当社も同チームのスポンサーとして支援しています。



▲ KV-Motoで出走する守谷さん

結果は「KV-40」部門では車両トラブルにより36チーム中29位、「KV-Moto」部門で43チーム中14位となりました。大会を振り返り、「昨年からは種々改良を加え今大会に臨みましたが、KV-40では熟成が間に合わずトラブルが発生してリタイヤと大変悔しい結果となりました。今回の反省を活かして次回は高順位を狙います。」と守谷さん。

マツウラはモノづくりに本気で取り組む人を応援しています。

### 2 展示会出展情報 マツウラでは次の展示会に出展予定をしております。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



#### ① IMTS2024

開催日程：2024年9月9日(月)～9月14日(土)  
会場名：McCormick Place (アメリカ/シカゴ)  
ブース：SOUTH BUILDING, LEVEL 3 #338630



#### ② AMB2024

開催日程：2024年9月10日(火)～9月14日(土)  
会場名：Messe Stuttgart (ドイツ/シュトゥットガルト)  
ブース：Hall 10, booth 10A11



#### ③ JIMTOF2024

開催日程：2024年11月5日(火)～11月10日(日)  
会場名：東京ビッグサイト  
ブース：東3ホール(小間番号：E3019)  
南2ホール(小間番号：AM115) ※ Additive Manufacturing Area

### 本号の書き終わり

●7月度の工作機械受注額は1,239億円(前月比93%)と、前月比では減少したものの、前年同月比3か月連続の増加、5か月連続で1,300億円を超えました。内需は357億円(前月比86%)と、前月比で2か月ぶりの減少となりました。前年同月比では23か月連続で減少となっています。外需は882億円(前月比95%)と前月比で3か月ぶりに減少したものの、3か月連続で850億円を上回りました。地域別では、北米においてアメリカの航空・造船・輸送用機械で大型受注があり、過去2番目の受注を記録したほか、メキシコでも自動車でも大型受注が見られ、2か月ぶりに250億円を超えました。

●先日、福井県立大学にて公開授業を受講してきました。講義は地域の高校生やその親子をメインターゲットとしており、同大学経済学部経営学科長の本野教授によるもので、「福井のモノづくりと自動車産業との関わりを学ぶ～繊維メーカーの事例より～」といったテーマ。前半は福井県内の産業に対する現状分析があり、統計調査のデータを用いて全国と比較して福井県内は製造業が盛んであることが示され、福井県は他県よりも製造業が生み出す付加価値額が高いこと、他産業に比べて正規雇用者が多いことなど、県内の製造業の特徴について学びました。後半は、同大学のOBとして県内繊維メーカーに勤める若手社員が登壇し、カーシート開発に携わる様子について語りました。商業高

校を卒業し、福井県立大学に入学した同氏ですが、入社間もない時期から設計開発に携わり、某国産人気車種のシートも彼の手で開発しているそうです。開発というイメージがありますが、彼の場合は開発に対するノウハウは学生時代に勉強していません。その代わりに、簿記などを勉強し数字に強い点を活かして、他のどのエンジニアよりもコスト意識を持って開発できているようです。開発職の人材採用となると、理系ばかりを追ってしまいがちですが、文理の括りではなく、職場で活かせるスキルを持つ人材の見極めや教育が重要であることを改めて感じました。

●次号はIMTS、AMB、JIMTOFの展示会特集としてお届けします。